

F113		伝道学特殊講義A1	
英名科目名	Special Lecture: Shin Buddhist Propagation A1		
大学名	龍谷大学		
連絡先	教学部 TEL : 075-645-7891 FAX : 075-643-5021		
担当教員	中村 陽子		
開講期間	2021年04月08日(木)～2021年07月15日(木) 3講時 13時30分～15時00分(毎週 木曜日) 開講 2021/04/29(木・祝)		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	木曜日 3講時
単位数	2	履修年次	3年次以上
会場	大宮学舎		
授業定員	120		
単位互換生定員	15	京カレッジ生定員	15
試験・評価方法	レポート100% 事前学習課題、最終課題レポートを総合評価する。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	30,000円(単位互換履修生は不要)		
別途負担費用			
その他特記事項	【会場】 龍谷大学大宮学舎 第1回目の教室については別途「お知らせ」欄に記載します。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p>目的・ねらい</p> <p>さまざまな条件(発達段階、疾患、生活背景、環境)にある人々とその家族を対象とした医療の現状とそのあり方を学ぶとともに、医療の制度・変遷を理解する。仏教が病むこと、老いること、死んでいくことの不安、苦悩とどのように向き合うのか、また、医療と仏教の連携について考える。</p> <p>講義概要</p> <p>団塊の世代が高齢期を迎え、これからの日本は更に少産多死社会が予想される。慢性疾患の治療や終末期援助は病院のキャパシティをはるかに超え、医療・福祉・介護等の社会資源の枯渇が危惧され、在宅医療が推進されている。</p> <p>このような日本の現状について理解し、仏教がこれまで培ってきた、各地域独自の相互扶助の文化や看取りの文化を基に、これからの仏教が地域包括ケアシステムの一員として多くの専門職と連携、協働する方法と具体的役割を考える。</p> <p>講義方法</p> <p>厚生労働省統計資料等を用いて日本の現状や社会保障・政策等の知識や価値、倫理学を講義で学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける仏教と医療・福祉・介護との連携、協働のために、これからの社会や地域に求められる仏教の役割と実践について学び考える。</p> <p>授業時間外における予・復習等の指示</p> <p>地域で暮らす人々の生活に深い関心を持つこと。また、目と手、五感を駆使して地域の声を聴き、これからの地域社会について考えること。</p>			
講義スケジュール			
第01回 仏教と医療の連携について考える。はじめに 第02回 仏教と医療の連携について考える。私たちを取り巻く社会について 第03回 地域での暮らしを支える医療・福祉 第04回 地域包括ケアシステム 第05回 地域包括ケアシステムと仏教地域で暮らすことの意味 第06回 在宅医療を支える制度と社会資源 在宅ケアを支える保険制度 第07回 在宅医療を支える制度と社会資源 高齢者を支える制度と社会資源 第08回 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 第09回 在宅医療と仏教 地域で暮らす認知症高齢者 第10回 在宅医療と仏教 地域で看取った独居のがん患者			

第11回 日本の看取りの現状について	
第12回 仏教と医療の連携 緩和ケア	
第13回 仏教と医療の連携 新しい時代の生と死「ビハラー」	
第14回 仏教と医療の連携 新しい時代の生と死「臨床宗教師」	
第15回 まとめ：地域での暮らしを支援する仏教の役割	
教科書	テキスト 鍋島直樹 『生死を超える絆 親鸞思想とビハラー活動』(方丈堂出版)
参考書	